

スマート田んぼダム実証が開始

県内は、6月19日に梅雨入りし、梅雨前線による大雨被害が懸念されますが、今年度から本格的に実証が始まった「田んぼダム」の取組が注目されています。そこで、今回の田んぼダム通信では、仙北管内の取組事例について紹介します。

美郷町・大仙市のほ場整備事業実施地区内でスマート田んぼダム実証事業（大仙美郷地区）による自動給排水システムや流量調整板の設置が完了し、実証試験が始まりました。

実証ほ場を、3タイプ【表1】設定し、大雨時の田んぼからの流出量を測定により、田んぼダムの効果を比較・検証するほか、水稻の生育・収量調査を行い、営農への支障について確認する予定です。

ほ場タイプ	取組面積
スマート田んぼダム実証ほ場	9.2 ha
従来型田んぼダム実証ほ場	10.3 ha
通常営農ほ場	5.7 ha

【表1】

田んぼダム通信

【第2号】

発行所
秋田県農林水産部
農地整備課
水利整備・防災班
TEL：018-860-1830
農地整備班
TEL：018-860-1824

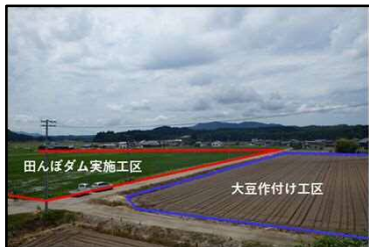
ICT水管理

スマート田んぼダム実証ほ場の水管理については、自動給排水システムの設定により全自動での水管理が可能です。あらかじめ水管理スケジュール（期別毎に田んぼの水位）を設定することによって、ほ場に設置した水位計のデータを基に自動で給排水操作を行います。このことから、水管理の省力化が期待されます。



【スマートフォンによるシステム確認画面】

地元の声



【田んぼダム実証田の状況】



【流量調整板設置状況】

下淀川地域一帯は、大雨が降れば水害が常襲化している地域のため、田んぼダムの取組で少しでも水害が軽減されることを期待している。今回の実証で、田んぼダムの効果を確認し、取り組み面積を拡大していきたい。

【秋田県協和土地改良区鈴木理事長】

実証モデル地区紹介

【1】下淀川地区

大仙市協和で実施中の下淀川地区は、平成29年・30年に淀川の氾濫により、人家や道路等への被害のほか、区画整理工事中の表土が流出するなど甚大な被害を受けた地域です。

区画整理工事・暗渠排水工事は、令和2年度までに完成し、水稻+大豆のブロックローテーションを実施中です。今年度からは、大豆ほ場への湛水被害を防止することを目的に地区上流部の水稻を作付けするほ場で田んぼダムに取り組んでいます。